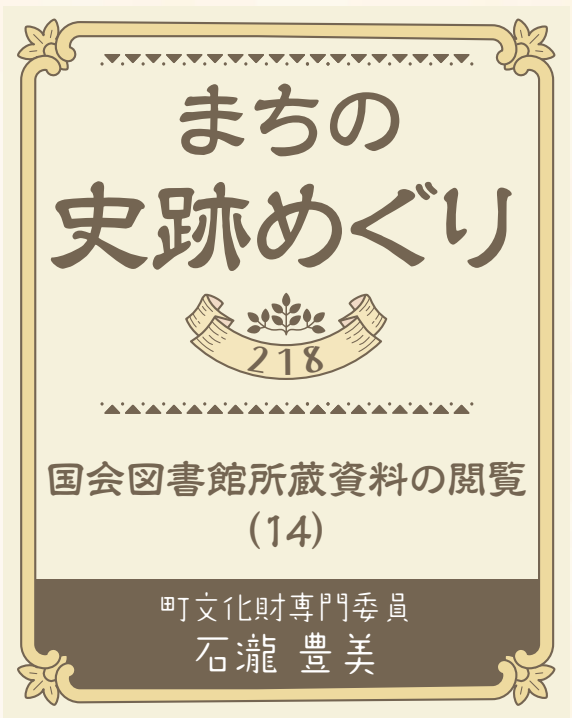




■新原憲兵分駐所

国立国会図書館デジタルコレクシオンで「糟屋郡須恵村」の検索を続けます。

「まちの史跡めぐり」第215回「広報すえ」2024年9月号に、1930年(昭和5年)1月、久留米憲兵隊長難波大佐が「新原分駐所の巡視」を行なったことを書きました。久留米憲兵隊の下に福岡憲兵分隊があり、さらにその下に新原憲兵分駐所(分遣隊のひとつ)が所属していました。ただ、いつから分駐所が置かれたのか不明なままでした。以下の記事から、1928年(昭和3

年)8月1日であることが分かりました。

・『軍事警察雑誌』22巻9号(1928年9月)

八月一日 本日より、久留米隊管内福岡県糟屋郡須恵村字「大字が正しい」新原に、分駐所を開設、事務を開始せり。
・田崎治久「続日本之憲兵」(1929年、749頁)
八月一日 本日ヨリ、当分ノ間、軍事警察執行ノ為、久留米憲兵隊ヨリ下士一、上等兵二ヲ福岡県糟谷郡「谷は屋の間違い」須恵村字新原二分駐セシメ、事務ヲ開始セリ。
分駐所名 新原憲兵分駐所

・宝来正芳「日本憲兵昭和史」上巻(1939年、706頁)
八月一日 当分ノ間、軍之警察務執行ノ為、久留米憲兵隊ヨリ下士一、上等兵二ヲ福岡県糟屋郡須恵村字新原二分駐セシメ、事務ヲ開始セリ。
・『海軍炭鉱五十年史』第四海軍燃料廠編(文献出版、1976年)

昭和三年八月 新原二憲兵分駐所ヲ置ク。(170頁)
昭和十四年八月 新原憲兵分遣隊廃止。(175頁)

正式名称は新原憲兵分駐所で、8月1日から軍曹清瀬貢(佐世保分隊より異動)と上等兵山口光次が、10月31日からは上等兵浦田大行がそれぞれ着任し、定員を満たしました(『軍事警察雑誌』22巻10号・11号・12号)。分駐所が新原に置かれたのは、海軍燃料廠採炭部新原採炭所(新原海軍炭鉱)の本部事務所があったからですが、1929年(昭和4年)10月に新庁舎が当時の志免村、現在シーメイトのある位置に落成し、移転しました。この時分駐所は移転せず、1939年(昭和14年)に廃止されるまで新原にあったことが分かりました。また廃止時点では、おそらく格上げされて、新原憲兵分遣隊と改称されていた

ようです。「須恵町誌」編さんの中で、終戦時に海軍炭鉱に憲兵がいたと聞いたことがありましたが、それが確かだとすれば分駐所が廃止された後、再設置されたことになります。今のところ、それを証明する資料はありません。

海軍炭鉱になぜ陸軍の憲兵が常駐するようになったのか、その理由を説明するものはありません。考えられる理由のひとつは、1918年(大正7年)に新原海軍炭鉱で米騒動が起きていたことです。米騒動の際には福岡城に駐屯する歩兵第24連隊の一部が駆けつけました。治安維持のために憲兵が必要とされたという事情はありますが、それにしては米騒動から分駐所の設置まで、時間が空きすぎているようにも思います。

もう一つ背景としてあるのは、そもそも海軍の施設の治安維持も憲兵の役割だったのではないかと、ということです。軍曹清瀬貢が佐世保憲兵分隊から新原憲兵分駐所に異動したことから考えられるように、そもそも新原海軍炭鉱の上部組織である佐世保鎮守府が所在する長崎県佐世保にも憲兵分隊が置かれていました。「海軍炭鉱五十年史」によると、坑

内で人身事故が起きた際にも憲兵が働いたようです。

■須恵村立図書館

福岡県教育会発行「県下学事関係者職員録」(1925年「大正14年」5月1日現在)によると、須恵村立図書館の職員は2人で、館長が森源太郎、司書が野上茂平。この時は糟屋郡の町村立図書館は18館あり、いずれも職員が2人で、多々良村立図書館だけが3人でした。森源太郎は1925年当時は須恵尋常高等小学校長を務めていて、図書館長を兼任していたようです。

『出版年鑑』(1936年昭和11年)版、東京堂)によると、須恵村立図書館は1918年(大正7年)創立、蔵書冊数647冊。「図書館一覽」(1934年「昭和9年」4月1日現在、文部省社会教育局)から創立年月は1918年1月と判明します。蔵書冊数・閲覧冊数とも647冊、閲覧人員240人、閲覧者の前年度延人員1万3242人、一日平均55・2人、職員数2人(2人か3人か、数字が判別しにくい)、館長は小林市助。小林市助は1936年当時、須恵尋常高等小学校訓導兼校長を務めていて、図書館長を兼任していたようです。

「図書館一覽」(1938年

「昭和13年」4月1日、文部省社会教育局)によると、須恵村立図書館は須恵村上須恵に所在しています。
「福岡県立図書館月報」236号(1941年昭和16年6月)によると、同年5月中の貸出文庫(県立図書館の蔵書を各図書館に貸し出すという意味)の発送先が40庫、糟屋郡では須恵村立図書館だけが入っています。

■須恵少年赤十字団

「官報」(1936年「昭和11年」10月7日)の広告、恤兵金品の欄に「須恵少年赤十字団」の名が出てきます。恤兵とは軍隊・軍人に対する献金や寄付、よく知られているものは、日用品、お菓子や手紙などを詰め合わせて戦場に送る慰問袋です。

一覧については陸軍大臣官房が次のように説明しています。満洲事変とは1931年(昭和6年)に起きた柳条湖事件を機に始まった日本軍と中国軍(中華民国、国民政府)との戦争です。
今回ノ満洲事変ニ際シ、明治三十七年陸軍省告示第四号ニ依リ、受領シタル寄付金・寄付者住所・氏名及寄贈品・同価格並ニ寄贈者住所・氏名左ノ如シ。

〔受領月日〕1月16日、〔品種〕慰問袋、〔数量〕46箇、〔価格〕、「現住所・族籍・官職・位勲爵」糟屋郡須恵村須恵尋常高等小学校内、〔氏名〕須恵少年赤十字団

この時は県外でも少年赤十字団を名乗り、糟屋郡では同じ1月16日に各小学校内の計15少年赤十字団が一斉に寄付を行なっています。慰問袋以外では慰問状・児童作品・雑誌・タオルが上がっています。軍隊への寄付は小学校としてではなく、児童が少年赤十字団を結成して、その活動の一環として行う、というようなルールがあったものと思われる。

少年赤十字団の制度は1922年(大正11年)に日本赤十字社が設け、目的は赤十字の平和の理想(人道、健康の注意、人類的・国民的共力共力は協力し合うこと)、自国・諸国の少年の共助(互いに助け合うこと)などを学び、実行することとされています。今で言えばボランティア活動でしょうか。

次いで「官報」(1936年11月2日)でも、3月14日、46箇の慰問袋の寄付が、須恵少年赤十字団によって行われているとあります。この時も郡内15少年赤十字団が一斉に寄付しています。

昭和十七年二月二十五日村社二列格

須賀神社

祭神 素戔鳴尊(すさのおのみこと) 玉依姫命(たまよりひめのみこと) 天照(あまてらす)皇大神 菅原神 鎮座地 福岡県糟屋郡須恵村大字上須恵

天照皇大神は天照大神のことで、素戔鳴尊はその天照大神の弟です。素戔鳴尊を祭る神社は祇園神社、須賀神社などが知られていますが、他にも

■上須恵から大島原に役場移転
「官報」(1936年「昭和11年」12月22日)に須恵村役場の移転の記事があります。
村役場位置変更
糟屋郡須恵村ハ其役場位置ヲ大字上須恵字大嶋原千八百八十番地ノ一、千八百八十番地ノ二、千八百八十八番地ノ二ニ変更シ、本月六日移転セリ。

昭和十一年十二月 福岡県

上須恵の郵便局付近にあった村役場が、大島原(現在アザレアホール)の位置に移転したものです。

■須賀神社が村社に昇格

「内務厚生時報」7巻4号(内務大臣官房、1942年「昭和17年」4月)に須賀神社が村社に昇格するという記事がありました。

昭和十七年二月二十五日村社二列格
祭神 素戔鳴尊(すさのおのみこと) 玉依姫命(たまよりひめのみこと) 天照(あまてらす)皇大神 菅原神 鎮座地 福岡県糟屋郡須恵村大字上須恵

天照皇大神は天照大神のことで、素戔鳴尊はその天照大神の弟です。素戔鳴尊を祭る神社は祇園神社、須賀神社などが知られていますが、他にも

いろいろな呼称があります。玉依姫命は神武天皇の母。太宰府市の電門神社に祭られている祭神と同じです。宝満大菩薩とも呼ばれたので、玉依姫命を祭る神社は宝満宮の名があります。菅原神は菅原道真、つまり天満大自在天神(天神様)で、道真を祭る神社は天満宮と呼ばれます。

「糟屋郡教育銘鑑」(1936年「昭和11年」)には、大字須恵の木戸半也氏について履歴を書き上げています。1869年(明治2年)に生まれ、1887年(明治20年)4月〜1893年(明治26年)3月、立花村原上小学校、仲原尋常小学校、障子岳尋常小学校に勤務、1893年に依願退職、1895年(明治28年)4月〜1902年(明治35年)7月、大川第二尋常小学校、勢門尋常小学校、鞍手郡脇田尋常小学校、志賀島尋常小学校に勤務、1902年依願退職。

1902年12月、須恵村の大字須恵・村社宝満宮、大字旅石・村社八幡宮、大字佐谷・村社熊野神社、大字植木・村社若宮八幡宮・天満宮、大字上須恵・無格社須賀神社のそれぞれが社掌補となり今に至る、1924年(大正13年)9月、宇美町の県社宇美神社の

社掌ならびに補となり今に至る、と書かれています。なお、植木の若宮八幡宮は若八幡宮とも呼ばれ、筥崎や宇美の八幡宮が応神天皇を祭神とするのに対し、若八幡宮は仁徳天皇を祭神とします。

このように木戸氏は神主のいない須恵村内の各神社で社掌補および宇美八幡宮でも社掌・社掌補を務めているとされていますが、神官として祭祀を掌ったことは間違いありません。ここで上須恵の須賀神社が無格社とされているのは、当時神社には格式(社格)があり、官幣社・国幣社それぞれ大社・中社・小社に分かれる、府社・県社、郷社、村社の順に並び、社格のない場合に無格社と言いました。